



としょかんだより 2月号

東峰学園（小学部）梶原弥生

2月になりました。1年で1番寒い時とされています。でも、木の芽や花のつぼみは、少しずつふくらみ始めています。立春が過ぎ、暖かい日には春がそこまで来ているように感じられます。2月は読書月間です。ひるどく・読書郵便・読書ノートに挑戦します。

新しい本がはいりました

「たんじょうびをとりのどせ！」

小学2年生のりおは、今日がたんじょうびなのにお父さんもお母さんもいません。ふと見ると今日の日付がカレンダーから消えています。

「放送委員は にんきもの」

ピオンタは、学校一の人気者。楽しいことが大好きでいやなことも歌っておどっしてしまえば忘れてしまう。放送委員の仕事はピオンタにぴったりのはずなのに・・・。

「計画委員は まよわない」

「計画委員」とは遠足などの学校行事や学校内で何か特別なことがあった時にリーダーとなる委員です。ある日、ポリピアという国から転校生がやってきました。計画委員のナビ子は、大はりきりですが・・・。

「わたしに続く道」

小学5年生の少女リイマは、ケニア人の父と日本人の母の間に生まれました。しかし両親は離婚し、母は日本人と再婚しました。リイマが50メートル走で学年一番の記録を出すと、「黒人だから速いだけだ」と言われます。見ただめで決めつけられ、自分は日本人だという確信がゆらいでいきます。

「若たちは どう生きるか」

太平洋戦争末期、母を空襲で亡くし、父と疎開したものの新生活を受け入れられずにいた少年はある日、大叔父が建てたという洋館を発見し、謎のアオサギに導かれながら、洋館に足をふみ入れます。

「こども宇宙科学」

宇宙はまだ謎だらけです。流れ星はどうして流れるの？月はどうして形が変わるの？宇宙人ってどこにいるの？宇宙の仕組みや不思議な現象など宇宙に関する知識を小学生向けに解説します



ねこの絵本～2月22日は、「ねこの日」です。

2月22日は、「にゃん にゃん にゃん」の語呂合わせから、「ねこの日」と言われています。ねこが登場するお話はたくさんあります。かわいいねこたちを紹介します。

「ねこは るすばん」

「にんげん、でかけていった ねこは るすばん」をしているのかと思っていたら……。あなたの知らないねこの世界が見られます。

「ほんやねこ」

本屋のねこが窓をしめ忘れてしまったある日のこと。窓から強い風が入り込み、本の中からシンデレラやピノキオなど物語の登場人物が窓の外へ飛ばされてしまいました。

「うちのねこ」

のらねこだったねこが うちへ やってきました。はじめはひっかいたり、かんだり……。ゆっくりゆっくり「うちのねこ」になるまでのお話です。

「黒ねこのおきゃくさま」

冬の嵐の晩、貧しいおじいさんのもとに一匹の黒ねこがやってきました。やせ細り、びしょぬれになってふるえています。そこでおじいさんは……。

「ねこなんていなきゃよかった」

ねこのももちゃんが死んだ。友だちがやさしく、心配してくれるのでつい、「はじめから、ねこなんていなきゃよかった」と言っていました。

「本屋さんのルビねこ」シリーズ1～6巻

ねこのルビは本屋さんのかたすみで本につもったほこりから生まれました。初めてのミルク、初めての友だち。たくさんの「はじめて」に出会いながらどんどん成長していきます。

「ネコツメのよる」

ある日、猫は気付きます。「あれ？もしかしてそろそろ……。その夜、「まちがいない、今夜だ」。猫たちは、家をそっと抜け出します。

「11ぴきのねことあほうどり」

コロッケのお店をはじめた11ぴきのねこたち。お店は大繁盛でしたが、売れ残りのコロッケにあきてしまいます。そこへやってきたのが、あほうどり。とりの丸焼きが食べたい11ぴきは、あほうどりをもてなします。

